

縫合した布帛のバギング性（第2報）

○伊賀正恵* 島崎恒蔵**

（*名古屋女子大短大， **日本女子大 ）

目的 衣服着用による型くずれの要因の1つにバギング性がある。この性質は基本的に布地に基づくものであるが、パターンの設計の仕方によっては縫目線を含めて議論することが必要と思われる。このような観点から、前報¹⁾ではバギング性への縫目の存在の影響を検討した。本研究では使用実態から繰り返し荷重が重要な意味を持っていると考え、評価方法の一部を変更してさらに検討を試みることにした。

方法 試布には綿・ポリエステル混紡布、縫糸には#60のフィラメントミシン糸（ポリエステル、ナイロン）を選択した。試布は100×100mmのサイズを基本とし、縫目を含む試料の場合は布を100×60mmに裁断し、本縫いミシンにより長辺を縫代10mmでステッチ密度を変えて縫製した。この場合、縫目に対して地糸が種々の角度を持つものも製作した。実験はJIS法の定荷重法に準じたが、押圧荷重を5回まで繰り返すこととし、併せて外観評価も行った。一方、実用的な衣服との関連で、肘部位を縫目線が通る二枚袖で、縫目線と地糸が角度を持つ場合と持たない場合の2種の袖を製作し、着用実験を行った。

結果 縫目を含む布帛のバギング性は、縫目線が地糸に沿った試料では、荷重水準、反復回数によって異なることがあるものの、概して縫目のない場合と比較するとバギングは、増大する傾向にあった。縫糸、縫合角度のバギング性への関与に関しては、縫糸と布帛の物性値が関与してくるが、特に縫合角度の影響は大きく、布のせん断変形が大きな意味を持つ。これらについてはいずれも定量的に検討した。これに加えて、着用実験では上記の傾向がよく反映されることが確かめられた。

1) 島崎恒蔵, 伊賀正恵: 日本家政学会研究発表要旨集, 213(1994)